

平成27年度 第4回山武市総合教育会議 会議録

日時 平成28年3月10日（木）午後2時
場所 山武市役所 新館 第5会議室
議題 (1)山武市立小中学校の規模適正化・適正配置について
①基本計画（案）に関する「意見を聴く会」の開催結果について
②今後の進め方・考え方について
(2)山武市教育振興基本計画の改訂等について
①山武市教育大綱を踏まえての改訂内容について
②これからの山武市教育の取り組みについて
(3)その他
平成28年度の予定について

出席者 ◎市長 椎名 千収
◎教育委員
委員長 小野崎 一男
委員 五木田 孝義
教育長 嘉瀬 尚男
○関係職員
副市長 中野 伸二
総務部長 関 嘉和
教育部長 渡邊 聰
保健福祉部長 川島 勝喜
総務課長 石橋 和記
財政課長 小川 雅弘
企画政策課長 田上 和弘
子育て支援課主幹 有井 實
教育総務課長 小川 宏治
学校教育課長 齊田 謙一
学校教育課指導室長 井上 博文
生涯学習課長 小野 稔
スポーツ振興課長 高橋 宏和
教育総務課副主幹 嘉瀬 多市
・事務局
教育総務課総務企画係長 秋葉 一徳
教育総務課総務企画係主査補 鈴木 慎太郎
教育総務課総務企画係主査補 篠原 正洋

◎開 会

教育部長 ただ今から、平成27年度第4回山武市総合教育会議を開会いたします。

皆様には、年度末のお忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

初めに、椎名市長より挨拶をお願いいたします。

市長 第4回の山武市総合教育会議をお願いいたしまして、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

今年度、最後の会議になろうかと思いますが、次年度に向けて、実行ある年にしなければなりませんので、しっかりと方向性を固めていければと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます、ご挨拶といたします。

教育部長 続きまして、小野崎教育委員長より、お願いいたします。

委員長 市長をはじめ、市長部局の皆さんについては、意見を聴く会に、2月の寒い中、ご参加いただきましてありがとうございました。

非常に人数が少ないということで、教育委員会の中でも、事前にいろいろ準備をしてきて、広報や防災行政無線等を使いながらやってきたつもりですが、あのような人数になってしまったことは残念に思っております。私も地元でもいろいろ参加しませんかと声をかけたんですけど、「私なりに、あれで納得しています」ということで、来ない方も結構いらっしゃったということもあったので、来た人の意見もそうですが、来なかった人の意見ももう少しまとめてあげる必要があるのかなと思っておりますし、事務局のほうも学校別に約1,000人もの保護者の方々に説明してきた経過もあるので、また、それらを踏まえて、今後も小学校、中学校だけではなくこども園、幼稚園を含めて説明する機会が持てればいいなと思っております。

今日は、そういうことでの取りまとめと今後の進め方ということで、ぜひご協議いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

教育部長 ありがとうございました。それでは、これより議事に入ります。

なお、議長につきましては、「山武市総合教育会議設置要綱」第4条第1項の規定により市長に議長になっていただき、議事の進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

◎議 事

(1) 山武市立小中学校の規模適正化・適正配置について

市長

それでは、しばらくの間、議長を務めさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

最初に、「山武市立小中学校の規模適正化・適正配置について」を議題といたしますので、事務局から説明をお願いします。

教育総務課長

それでは、私のほうから資料の説明をさせていただきます。

本日の会議資料の1ページ目をご覧くださいと思います。山武市立小中学校の規模適正化・適正配置の基本計画（案）に関する意見を聴く会の開催結果について、ご報告させていただきます。

2月6日、7日、21日の3日間で意見を聴く会を開催し、皆さんにご出席をいただけてきたということでございます。参加者が133人と少なく非常に残念な結果となりましたということで、結果は下の表に当日の参加者、各中学校区ごとの人数が載っているのを付けてございます。ちなみに、隣には、前年に行いました基本方針の意見を聴く会を行ったときの人数でございます。大体同じような感じの人数の参加をいただいたということでございます。

今後、この計画を推進していく上では、総合教育会議等での協議を行いながら、市長部局と教育委員会が連携を図り、今後の構成や計画の進め方について、共通理解のもと進めていく必要があると考えております。

資料1ページ目の下の段には、ここから2ページ、3ページと続くんですけども、各中学校区で質疑応答をしたんですけども、質問の部分を箇条書きでまとめたものをつけてございます。ご参加いただいていたいらっしゃる皆さんもいますので、あえてここではご説明申し上げませんが、こういう形でまとめさせていただきました。

別添資料で、別紙資料1というものを別につけてございますけれども、こちらには概要として、そのときのやりとりを活字起こしたものがございますので、ご覧くださいと思います。

4ページ目の下の段になりますけれども、当日参加者アンケート結果というところをご覧くださいと思います。こちらには、133人のご参加された方にお帰りの際にアンケートをお願いしたところ、62人の方からアンケートを書いていただいたものを取りまと

めた結果について書かせていただいております。

結果としましては、「理解できた」とお答えいただいた方が51.6%で、回答者の半分以上の方が計画内容について理解をお示しいただいた結果になってございます。逆に「理解できない」と回答された方は17.7%という結果になりました。しかしながら、「理解できた」と回答された方の中でも、「計画には理解できたが反対である」というコメントを書いていた方もいました。

アンケートには2つ設問があったんですけれども、もう一つの設問のほうにつきましては、別添資料2に質問の内容の結果が書かれているんですけれども、統合を進める上で配慮を要するものとして、最も配慮すべきと思うものを選んで丸を書いていただくような設問だったんですけれども、これにつきましては、「児童生徒の通学手段」を選んだ方が一番多く24.8%、続いて、「児童生徒の教育活動」が21.2%という結果になってございます。これも数は少なかったんですけれども、進めていく上での参考にしていただければということでご案内いたします。

めくっていただきますと、別紙資料2のほうに単純集計ということで、62件のアンケートを単純に分析というか集計したものを載せてございます。

本日、追加資料で机上配布させていただきました、子育て世代、30代から50代までで、50代につきましては、お子様がいるとご回答いただいた方を加えました方々からいただいたアンケート結果をクロス集計したものををご用意しましたので、ご覧いただきたいと思います。こちらを見ていただきますと、基本計画（案）に対する理解というところでいきますと、30代から50代の未就学から中学生までのお子さんがいらっしゃる方、39人のアンケートの中では、20の方が理解できたということで、51.3%と半分以上の方がご理解いただいたという結果が出ています。

その下は、6中学校区ごとに、それぞれの分析をした結果になってございます。成東中学校区は、この世代の方で回答いただいた方がお一人だけだったので、その方が「できた」というお答えをいただいたので100%になっています。成東東中につきましては、30代の方が3人ほどご回答いただいておりますが、「できた」「できない」「無回答」ということで3つに分かれている。40代については、「理解できた」という方がお一人、「無回答」がお一人ということで半々、50代の方は「理解できた」という形で、学校ごとに回答の内容が分かれているところになります。

特徴的なのが、蓮沼中学校区になりますが、30代の方は5人ほどご回答いただいたんですが、「できない」、「理解できなかった」という方が3人、「無回答」がお一人、「どちらとも言えない」ということで、理解できた方の回答はありませんでした。40代の方は「理解できた」方がお二人、「できない」、「どちらとも言えない」という方が3人とお二人ということで、50代の方は「理解できた」という方がお二人、「できない」方がお一人、「どちらとも言えない」という方がお一人ということで、理解できたという方の割合が合計して25%ということで、4分の1程度の理解という形の数字になっています。

2ページはアンケートの理解度を示す1つの指標というか形でお示しさせていただきました。

今後の進め方、また5ページに戻りますけれども、基本計画（案）に関する意見を聴く会での参加者が少ない形になりましたけれども、ある程度の地域ごとの考え方は伺えたのではないかと考えております。しかしながら、地域によっては計画に対してまだまだ理解を得るために対策が必要な地域もあるかと思いました。当日、アンケートを行った結果やパブリックコメントの意見のほか、議会第1回定例会においては多くの方から統廃合（計画）についての一般質問があり、統廃合に関するご質問、意見内容がより具体的なものになってまいりました。

こういう状況を踏まえて、基本計画を進めていくに当たり、市長部局と教育委員会が連携・共通理解を図り、今後の進め方・考え方についてまとめる必要があると考えています。

そういうことから、先般、教育委員会では、教育委員会第2回協議会を開催しまして、今後の進め方や当日、意見をいただいた事柄の大きな部分について、意見交換をして、協議会の結果をまとめたのが5ページ、6ページの資料になってございます。

そこでは今後の進め方ということと、その下には、これもご意見があった、松尾小学校の校舎建てかえに伴う仮設校舎の位置ということでもご質問があったと理解しておりますけれども、その件について。6ページ目が、参加者が少なかったことをどのように捉え、どう判断するのかということをご指摘いただいたと。多くの保護者の方、地域の方から意見を聞いてくれというご意見もありまして、それに対する対応等について、教育委員会も第2回の協議会で議論をしたと、このことにつきましては、後ほど教育長のほうからご報告いただきたいと思いますと考えております。

6 ページ目の下のところに、教育委員会で今後の進め方について議論したところの点線の下部分ですけれども、今回、意見を聴く会では、学校の統廃合の基本計画と合わせまして、まちづくり、人口問題、子育て等の市の施策についても説明をしていただき、そこについてもご意見をいただいた形になってございますので、市の施策について、市長部局が今後どのように推進していくのか、また、教育委員会はどのようにかかわっていくのかについても、協議・調整をしていっていただければということで、ここに書かせていただいたところでございます。

最後に、7 ページ目の資料で、今後のスケジュールということで、事務局で今後、どのように進めていったらいいかということで、考えた案が、この資料でございます。平成28年度がオレンジ色の欄になりますけれども、基本計画（案）をまだまだ説明していく機会を設けなきゃいけないということから、小さい単位で今後も説明をしていきますというお話をしておりますので、そういうことを7月ぐらいまでにやっていければと考えております。

8月ぐらいまでを目途に、基本計画（案）を基本計画の成案にしていければと考えております。それを踏まえて、より細かい具体的な計画として、対象地域ごとの実施計画の策定に向けて話し合いを続け、12月ぐらいまでに案をまとめて、あり方検討委員会にお諮りし、地域別協議会にも話をさせていただいてご意見を伺うことを考えております。また、でき上がりましたら、議会にも全員協議会等を通じまして、案についてのご説明をさせていただき、ご意見をいただく機会を設けて、今年と同じように、3月には市民向けの説明ができればという形で考えております。そういう案を、ここにお示しさせていただいたところでございます。

資料の説明は以上でございます。よろしくお願いたします。

市長

事務局から先日行われました意見を聴く会について、また、今後の進め方についてのお話でございました。その中で、教育委員会第1回協議会で、この意見を聴く会を終えて、今後の進め方や諸課題について議論がなされたということなので、最初になされた議論、結果について、これは教育長のほうからお話をいただけるでしょうか。お願いたします。

教育長

それでは、ただいま説明がありました意見を聴く会の内容を受けまして、教育委員会で協議された内容について、ご報告をさせてい

たきます。

6回の適正規模・適正配置計画（案）の説明をしたわけですが、出席者は資料にありますように16名から31名という結果でございました。1年をかけた説明をしてきましたので、基本方針のときより、より具体的な提案をしていることから関心は高いものと思っておりましたが、実際の出席者は大変少ないという状況になってしまいました。特に若い方や保護者世代の出席が少なかったことは大変残念でございます。

このような状況ではございますが、全体を通して見まして、年配の方につきましては、地元意識から学校がなくなることについての抵抗感が強く、反対の意見をいただきましたが、保護者世代や若い方については、子どもの教育環境を考えると仕方がないという受けとめ方をしているようでございました。

当日のアンケートでも、半分以上の方が、この計画を理解していただいているという結果もありますように、おおむねご理解を得ていると受けとめているところでございます。

地域によってのばらつき、温度差がありますので、今後は地元の理解の程度に合わせて、肯定的な地区には、より現実的な具体的説明をして進めていくようにし、そうでないところには引き続き丁寧な説明と意見交換を重ねていくようにいたします。基本的には、今の計画案に基づいて進めたいと考えています。

スケジュール的には、8月ごろを予定しています、あり方検討委員会には成案としてお示しをし、その後の実施計画（案）の策定に進めたいと考えているところです。

今後の説明会についてですけれども、人口減少というところから適正化計画が始まっていることもございまして、市としてのまちづくり、人口増加策への関心が強いこともありますから、市としての考え方もあわせて示していく必要があると思いますので、意見を聴く会に続きまして、市長並びに市長部局の出席をお願いしたいと思っておりますので、ぜひよろしく願いいたします。

また、統合年度に該当する子どもたちに与える影響を心配する声が大変多くありましたので、この計画に沿って進めた場合に、なるべく不安やストレスを与えないよう対応するため、教育環境についてより詳細な検討をご指摘ごとにいたします。

以上でのことが協議会の中で話した概要となりますので、それについてのご意見をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

市長

ありがとうございました。教育長から教育委員会協議会での話し合いの内容について、ご説明をいただきましたが、これはうちのほうからの意見ということになるかと思いますが。

市長部局も意見を聴く会に参加をさせていただきました。私は最後の日は行けなかったんですが、一番大変だったようで、ご苦労されたと思いますが、いただいた意見を大づかみにした場合、学校統合のあり方そのものというよりは、どちらかという、政治問題にしていこうというご意見もあったり、純粹に学校統合のことではなく、どちらかといいますと、現在の人口減少社会の中での山武市の市長部局に関する施策についての質問が多かったと理解をさせていただきます。

そういった意味で、教育委員会ご提案の適正化の案に対して、これを覆すような建設的な意見は出ていなかった、私はそういうふうに理解させていただきます。ですから、どちらかといいますと、人口増加策を何もやっていないではないかとか、そういう意見、時間をそういったところに費やされた感じがいたします。

これまでも、たびたび学校単位で保護者の方々にご説明いただいた中でおおむね理解を得られたんだろうと私も考えてございますけれども、例えば、1つの例をとりますと、こども園の統合につきましても、実際のところは、なかなか理解が得られなかったわけですが、特に、しらはたこども園については、津波が来て、その機会に急いで統合を、ある意味強引に進めたという経緯がありますが、実際に統合してから、それについて大きな問題が生じているわけではないと理解をさせていただきます。

1つの方針をお示しして、実施段階において体を張って反対という人が出てくるようなら、それはそれで大きな力になると思いますが、私どもといたしましては、教育の将来を、どのように子どもたちを育てていくかということの中で、しっかりと練っていただいた教育委員会の案につきましては、今回の意見を聞く限りでは、これは自信を持って、できるだけ早目に成案とされて進めていただきたいと考えてございますが、今日、ご出席の委員さんがどのようなお考えをお持ちなのかをお聞きしたいと思いますので、それぞれご意見をいただければと思います。

五木田委員

私は、1つは、子どもの学ぶ環境を整備する、これが大人の、特に教育委員会の大きな仕事ではないか。それで、どういう環境にするかという、勉強というのは1人でも勉強できますよね。ところ

が、特性にかかわる社会性とか規範とか徳力の問題については、ある程度適切な規模というか、子どもの数がいなければ高められないと、私は持論を持っていますけれども、だからこそ、集団的なスポーツ、あるいは、中学校でいえば、この間の意見を聴く会で、前松尾中学校長が言っていましたけれども、部活動は中学校において極めて大事な要素なんだという話をしましたけれども、私もそのとおりだと思います。

それを整備していくには、地域の理解が必要だろうと思います。私も何回か、地域の市民に丁寧な説明をすることはどういうことかと考えていましたけれども、6ページの参考資料の中身を見ればわかるように、あるいは、スケジュール表を見ればわかるように、平成24年度からあり方検討委員会を立ち上げて、それで諮問して、答申が返ってきて、それから、さまざまな意見交換を全部で30近くやりましたかね。あり方検討委員会については、議論を50時間ぐらいかけてやってきているわけでありましてけれども、時間をうんとかけたから、市民に対して丁寧な説明だったかという、それは私はないだろうと思います。

できるところからやることを、委員の皆さん、教育委員会で理解をもらったわけですがけれども、1つは小学校の複式の解消、それから、中学校では単学級の解消が大きな課題だろう。まず、それからスタートしていく部分が一番大事なことじゃないかということをお皆さんで確認し合ったわけでありましてけれども、そういうことでもありますので、私は、できるだけ急いで複式の学校の解消と中学校の単学級の解消、先ほど申し上げた理由で急いで子ども、児童、生徒の望ましい教育環境をつくってやるのが、私たち大人の責任じゃないかと、そう強く思っております。

以上です。

市長

ありがとうございます。

小野崎委員長、何かつけ加えることはございますか。

委員長

私は中学校のことでいうと、片方では、クラブ活動はもちろんですけど、学力をつけるところが基本にあると思うんです。そのために学年3学級持って、先生方の配置も主要5科目が2人ずつ配置できる体制をつくる必要があると思っていますので、中学校については、このことをもう少し強調して進めていくことで、今回の提案になったかと思っていますので、その点をもう少し説明してあげればよ

かったかなという反省をしています。

市長

ありがとうございました。よろしいですか。

教育長

今後の進め方において、先ほどもお願いしたところなんですが、小さい単位での説明ということになりますと、今まで聴く会は6回でございましたが、多分回数が大分多くなってくるのではないかと考えています。そんな中で、市長並びに市長部局の方たちの出席をお願いしているわけなんですけれども、その辺のところはご協力いただけるということではよろしいでしょうか。

市長

なかなか少し日程的に大変だと思います。

私が思いますのに、意見を聞くというよりは、ここまでしっかりとまとめていただいたものを、説明してご理解をしていただかなければいけないと思いますので、その中で今回もご意見たくさんいただいている、まちづくりとの関連ということも、どちらかというところと反対意見はそっちから出ちゃっているわけですから、この点につきましては、我々しっかり説明できるような体制で臨めればと思います。

今回、学校統合をする前に、人口増加の政策、施策が打たれてないじゃないか、そっちが重要じゃないかというご意見、これはある意味ではごもっともな話であります。こんなに人口が減って、それを単に受けとめてればいいというだけの話ではありませんので、まちづくりの面からも人口が減ることに対しての歯どめをどうかけるか、重要なことですから、いただいたご意見が的を射ていることは事実であります。ただ、それをそのことと、だから学校は今のまま残せというのは全く通用しない話ですし、今回の議会でも大分そういうご質問があって、学校をなくしてしまったら、もっと人口が減るんだから残しておけと。ですが、現実に今残っていて、人口が減っちゃっているわけですから、学校を残しておくことによって人口減少を食いとめるということはなかなかできないというご説明させていただいているんです。なかなかわかっていただけないんですが、学校統合は、いずれにしてもこれから一定の期間、人口が減りますので、それに対処していかなければなりませんし、そのためには早く手を打たなければいけないということで、今回このような適正化の計画を練っていただいているわけですから、ここの理解をお願いしなければいけない。もう1つ、いただいておりますまちづくりの

中での活性化でありますとか、人口減少にどのような歯どめをかける施策があるのかということについてのご説明は、別の問題だということの説明してもらえばよろしいのではないのでしょうか。2つの問題が遠い将来に関連しますけれども、現実には2つの別の問題を解決していかなければいけないと理解をしていただきませんか、元に戻して今のままでやったら人口は増えるのか、決して増えませんが、その理解をしていただくというのが、我々の務めだと。そのためには、今回の地方創生を中心とする市の目指すところをご説明していかなければいけないと思いますので、それを必死になってやっていければと思います。

きのう新聞にも出たでしょうか、成東高校と城西国際大学が協定を結びました。成東高校が今年度入学する生徒さんから単位制に変わる、来年度、2年生から変わるそうですが、とにかく今年入った生徒さんは2年間単位制の高校としてみんな勉強するそうです。今の2年生はそのままかな。平成28年度に入って平成29年度から単位制に。ですから、平成28年度に入った生徒が2年になって、そこから単位制が始まって、平成29年度に入った生徒が1年生、この4月に入った2年生。3年生がそのまま、今の旧制度で出るんだそうですけど、単位制高校。そのために地域の高校と協定を結んで、お互いに単位を大学に行って単位を取る、高校の単位。高校のときに取った単位は、城西国際に入ってくれば、大学の単位として認めるよという、なかなか上手な考え方で、お互いに有利な生徒募集について、あるいは高校生に開かれた高校といいますか、社会性を身につけるのに特に重要だと思って、とてもいい協定になると思いますけれども、これ1つ取りましても、世の中どんどん変わっていていると思っております。そういう中で、現状に縛りつけるということで問題解決はできませんので、やむを得ず生徒数が減少する中で、教育環境をどうしても維持していくためには、統合せざるを得ないということについては、これをしっかりとご説明をしてご理解いただく。今回のご意見の中で、このことについての反対ってあんまり実際には少人数学級がいいとか、複式学級がいいというお話もありましたけれども、ごく一部の方に、このことについてそれほど大きな反対があったとは考えてございませんので、そういった意味でこの案についてはしっかりとご説明していただいて、私たちはまちづくりについては、これからも説明をしていかなければと思います。

教育長

成案にするのを8月ごろということ考えているんですが、まだ

基本計画案からこれを成案として、案を取るという判断なんですけれども、説明をしていく中で、反対意見の強いところはなかなかそれまでに全部がご理解得られることは難しいだろうなと思っております。そんな中で、計画案の案を取って、成案として具体的な実施計画の策定に入るに当たって、この判断をどこに置くかというのは、はっきりと示せない悩ましいところなんですけれども、今後、説明会を加える中で、地域の方たちの考え方、感触というものはつかめてくると思います。そういった中で、ある程度の地域が理解を得られれば、成案としていけるのかなとは思っておるんですが、その辺の判断を教育委員会側だけではなくて、こういった総合教育会議とかの席で、できれば一緒に考えていただければと思っております。

市長

わかりました。そこにつきましてはまた議会のご理解もいただきながら、成案にしていければと思っております。

という方向性でよろしゅうございますか。それでは、適正化・適正配置については、以上でよろしいですか。

教育総務課長

先ほどの5ページ目の仮設校舎の位置についての意見というところと、あと6ページ目の一番下のところについて、話し合いの結果というのも確認したかったので、ここについてもご意見をいただければ。

市長

この資料の白く抜けているところ、総合教育会議、教育委員会の考え方を踏まえての市としての方向性・進め方ということでしょうか。

これはまず、各中学校区での反応（分析）等を踏まえた今後の進め方についてということで、これは私のほうでお話を申し上げたということでもよろしいのでしょうか。

教育総務課長

はい、最初の空欄の括弧の部分は、今の方向性で。

市長

よろしいですか。

教育総務課長

はい。

市長

松尾小学校建て替えに伴う仮設校舎の位置についてということで

すが、教育委員会での協議会結果といたしましては、松尾小と豊岡小の統合による松尾中への移転時期と蓮沼中と松尾中の統合時期が被らないように検討する余地はある。今後、学校生活における場所の確保・調整について洗い出しをし、検討を進める。なお、仮設校舎の建設場所については、計画どおり松尾中の敷地内として進めていくこととする。ということでございますが、市長部局として、そのように、ご検討いただいたとおりでということによろしいですか。

委員長

私から、協議会の協議の内容は、このようなことで進めていくんですが、要はもう少し具体的な内容を、松尾小学校、豊岡小学校、中学校を入れて具体的にもう少し話できたらいいなど、その機会がつかれたら仮設を中学校に持っていくのと、中学校同士の統合時期も含めて、より具体的な話がしたいなと思っているところでありますので、この内容を踏まえて進めていきたいなと思っています。

市長

学校の統合とまちづくりの方向の中で、学校統合は学校統合として、そのときに、今度はまちの活性化はどうするのかというのをいただいている中では、空いた校舎についてかなり市長部局としては、積極的な活用を図っていかなければならないということになりますので、そこにもう既にさまざまな検討を始めているところです。そういった中で、場合によっては学校の統合計画に、この先影響が出てくるかもしれない。変更してほしいという可能性があるかもしれないということも考えてほしい。その場合は、もちろん教育の質を落とすということはあってはいけないんですが、単に学校を統合するだけで山武市の活性化ができないという、一緒にいただいているご意見からすれば、まちづくりのほうでもさまざまな施策を打っていかなければならない中で、場合によっては学校の、この計画どおりじゃないほうが、まちづくりにつながっていくという事態も生じないとも限らないということも考えられますので、そういったことについてもできるだけ早く、我々としてはご相談できるような形で進めていきたいと考えています。

ただ、今回この計画につきましては、まず方向性として時期までお示しいただいているわけですから、考え方をまずしっかりと市民、それから特にご父兄の方々、保護者の方々にお示しをするということが大切なことだと、こういった形でできるだけ早く教育環境を整えていくということをお示しするわけですから。そのことについては、将来変更があろうとも、しっかりと案としてお示しするという

ことが大事なんだろうと思っています。

今言ったことが、6ページの下にもかかわってくる。6ページの下については、ですから今回、意見を聴く会でも出てきていることというのは、おそらく地域でこれから小さな単位で説明を行っていけばそこでも出てくる。それはあくまでも、教育問題というよりは市の活性化のあり方ということ、今の地方創生にかかわってくる部分になりますので、そういったことにつきましては、私どもとしてもこれを学童も進めていく、同時並行という、同時並行的といってもそれでいいと思いますが、別の課題としてしっかり取り組んでいく、そのことがそれぞれの計画に影響を与え合う、及ぼす可能性というのがありますという説明をしておいていただかなければいけない。それから、学校も適正化・適正配置の計画をまずしっかりとつくらせてくださいということと同時に、皆さんからいただいている学校統合という説明会の中で、意見を聴く会の中で必ず出てくるのが、どう山武市の人口減少にどう歯どめをかけていくかという問題ですから、これをしっかりと取り組んでいく。そうすると、この2つの計画を同時に進めていく中で、場合によってはお互いの計画に影響を与えることが出てくる。そのときは非常に固定観念ではなく、フレキシブルに対応させていただきたいというふうになっていくかと思しますので、そういったことをもう少し表現してほしい。

委員長

はい。わかりました。

とりあえず進めていきましょう。具体的に、1つの例とすると、豊岡小、松尾小の話で具体的な話をすると、実際には子どもの通学方法をどうするのかとか、統廃合がどうこうというよりは、実際の細かい話になるのかなと私は思います。

市長

そのためにも、実施計画といいますか、実際どういう問題がこれから出てくるのかということの検討に早く入るためにも、この計画を早く成案にさせていただきたいと、私どもとしても考えますし、説明会でもその辺をお願いしていかなければいけないと思います。

(2) 山武市教育振興基本計画の改訂等について

市長

それでは、次の議題に移ってよろしいでしょうか。

「山武市教育振興基本計画の改訂等について」を議題とします。事務局から説明をお願いします。

教育総務課長

それでは会議資料の8ページ目をご覧いただきたいと思います。山武市教育振興基本計画の改訂等についてでございます。昨年9月16日に開催した第2回の総合教育会議におきまして、山武市の教育大綱が策定されたということを受けまして、教育委員会が策定しております山武市教育振興基本計画を改訂をしたということのご報告でございます。大綱の4つ目に掲げられました、グローバル社会で活躍できる人づくりを山武市も教育振興基本計画にも加えて改訂をし、各施策・各事業の目標達成に向け取り組んでいく形でつくり直したところでございます。

改正案につきましては、2月17日に開催しました第2回の教育委員会定例会で協議案件としまして、改訂内容について説明をさせていただき、ご協議をいただいたところでございます。当日の協議を踏まえまして、3月17日の3回の定例会に議案として提出いたしまして、ご承認いただいた後、公表するというところでございます。

改訂の内容につきましては、別紙資料の4、山武市教育振興基本計画の主な改訂箇所というところでお示しさせていただいておりますので、そちらをご覧いただきたいと思います。

まず、1枚めくっていただきまして、最初のページのところ、表書きのところの計画の背景と趣旨というところに、今後の取り組み、これからの社会がどういう社会になっていくのかというところで、教育振興基本計画に、どういうものを盛り込んでいくのかという部分を、こちらの形で書いています。

それを踏まえまして、次のページ、2ページ目に、今のページの裏ですけれども、第2章の山武市教育の目指す姿、基本理念、その下の基本目標というところに、今まで3本柱がありましたところに、4つ目の柱としてグローバル社会で活躍できる人づくり、これを大綱の策定に伴い、追記をさせていただいたというところでございます。

あとは、個別の重点施策と事業が、それぞれ見直しをしていくんですけれども、その関連でいきますと、大きなところでいきますと、次のページの裏側、4ページになりますけれども、こちらに確かな学力が身につく教育を実践するために必要な行政サポートという具体的な取り組みの中で、事業②国際理解教育の推進としまして、赤字で書かれています6、7、8番目、英語力アップ事業であったり、異文化理解講座の実施・一校一国運動の展開、8番目に全幼稚園・こども園・保育園でALTを活用した英語活動を行う「ちびっこ国

際交流事業」の実施という形で、こういう取り組みを明記した、ところでございます。

次のページの5ページ目が、市共通ダンスプログラムの検討を行いますということで、今後の山武市教育の取り組みの中で、改めて取り組みとして、ダンスプログラムの検討というものを明記したということが、グローバル化の取り組みに対する、具体的な取り組みということで書き直したものでございます。あとは、各部署の取り組みの中で見直しをしたものでございます。説明は以上です。

あわせまして、会議資料に戻りますけれども、9ページ、10ページ目に、これからの山武市教育の取り組みについてということで、レジメをつけさせていただきました。この点につきましては、学校教育課からご説明をさせていただきます。

学校教育課長

それでは学校教育課の齊田でございます。資料の9ページ、10ページをご覧ください。今、教育総務課長からお話がありましたとおり、今後の山武市教育の取り組みということで、これにつきましては山武市教育振興基本計画の改訂に組み込まれているものの中にございますが、中学校単位で実施した意見を聴く会の説明会資料をもとにしたものでございます。

変わってきている部分につきましては、まずこれからの山武市教育の取り組みについてということで、まず最初に教育理念を上げてございます。その理念を受けて、実現の方向性というものを少し打ち出しました。「グローバル化社会」、それから「多様な価値観が存在する社会」、そして昨今言われておりますように、「家庭教育の格差解消という問題」、これらが理念を具体的に達成するための方向性として位置づけております。

具体的な施策としては、「幼少期教育の充実」、「グローバル教育推進」、「ICT教育の充実」ということで考えております。その下に書いてあります、授業改善・特別活動における選択肢増・情報発信というのは、これは日常的にも実践していくことが大切であり、これは統廃合を視野に入れた部分の位置付けになっています。

下の図を見ていただきますと、この青のところ新たな切り口としてもうけた幼少期、グローバル、ICTです。その新たな切り口をどのようにして取り組むかということについて、その下に赤で示した日常の教育実践の3点、わかる授業づくり、特別活動の充実、学校の情報発信と結びつけて展開していくことを図に表したものです。

具体的にはどのような展開をしていくかについて、10ページをご覧ください。

説明会では、こちらに今後の重点として標記をしましたが、ここについては、社会性を身につけ、変化に対応できる考える力を育成するためにと題を変えました。

1つ目の幼少期教育の充実につきましては、学びの意欲を高めるために、アの文については、具体的にはどんなことか。1つの例として聞く姿勢などをしっかり身につけるように学習習慣づくりをしていこう。イにつきましては、遊びや道德教育を通して、道德性を重視した生活習慣づくり。そして、これはいじめ防止に向けた人間関係づくりにつながるという考え方でございます。ウの学習内容の一貫性につきましては、英語教育、これは既にこども園のほうでもALT活用していただいています。それと連携を図って進めていく。

2つ目として、グローバル社会に対応できる人材育成ということで、英語教育の充実につきましては、具体的には、異文化理解教育の実施、これは全小学校、それから中学校。小学校につきましては、発達段階を考慮し、低学年と高学年に分かれ2パターンで実施することになります。これは、グローバル化社会の導入の講座ということで考えます。そして、2つ目として、英語力アップ講座については、中学校で2回程度実施し、そして英語検定の受験機会を与えて、英語力の達成度を確かめるということの、検定上の補助、英語力の向上を目指していくことを進めていくという内容です。

また、自国文化等の理解につきましては、今現在も行っていますが、さらに朝読書の充実ということで、これは蔵書の充実ということについても含めております。平成28年度の予算でも図書館活動の充実につきましては、ある一定の方向性も検討していただいている取り組みになっておりますので、さらに充実を図っていきたいと思います。

続いて、日本文化の学習機会の提供ということでは、地域人材の派遣等を積極的に行う。

表現力・達成感、そして郷土愛育成については、集団活動の充実、これは小学校における児童会、中学校における生徒会活動を通して、集団の質を高めることが、個々の力を高めていくことにつながるというところからの取り組みです。

それから、アクティブメニューということで、行動的な授業ということで、市内小中学校、共通したダンスの実施を進めていくということを考えています。

また、特別支援教育の充実につきましては、教育支援員の複数配置を目指しています。現在、個別のニーズが増えてきておりますので、これに対する対応を連携しながら進めていきたいと考えます。

そして、多様な価値観の習得ということは、これは特別支援教育にかかわっているさまざまな大人や、そして子どもたちの様子を見ていくと、特に大人のかかわりを子どもたちに見せながら、子どもたちは大人のかかわりを成長モデル的として捉えていきます。見て学ぶというところにつながるといった視点からの事業でございます。

そして、3つ目として、ICT社会における情報活用能力の養成ということで、1つ目としては、全児童生徒がICT機器活用を習得すること。そして、2つ目としましては、情報モラル教育、これをきちんと効果的に、そしてよい使い方ができるようということで、今、子どもたちが持っているもの、スマホであるとか、インターネット対策等も含めて進めていきたいと考えています。

そのような具体的な取り組みを展開する中においては、やはり子どもたちの学びを広げることが大事であり、子どもたちは子どもたち同士の中で大きく学んでいくことを重視していきたいと思っておりますので、このプログラムの中で、子どもたちの考える力を育成していきたいと考えているところでございます。

以上でございます。よろしく申し上げます。

市長

事務局からの説明が終わりました。

山武市教育大綱については、平成27年の9月の第2回山武市総合教育会議で、教育委員の皆さんからご意見をいただきまして、山武市としての大綱が策定をされたわけですが、本教育大綱は、教育委員会で策定をしてくださってございました教育振興基本計画をベースにしてございますけれども、その中の目標4に「グローバル社会で活躍できる人づくり」を掲げさせていただいたということでございます。

今回の改訂では、その部分も含めて内容が具体的に見直されたということだと思っておりますが、これからの山武市教育の取り組みということでも具体的に示していただきました。そういったことも踏まえまして、少し意見交換ということになるかと思っておりますが、教育長からお話をいただければと思います。

教育長

教育振興基本計画の見直しにつきましては、具体的な修正内容、また、今後の教育の方向性につきましては、今、説明があったとお

りでございます。

教育大綱に掲げました「グローバル社会で活躍できる人づくり」というのは、今回、新たに地方創生戦略の中でも「グローバル人材を育てる力の創生」として、基本目標の1つになっておりますことから、市の今後の方向性とも一致した中で、教育委員会としてもこの目標を積極的に進めていかなければならないものとして捉えております。

そのようなことから、今回の教育振興基本計画の中には、地方創生戦略の中で、教育に関する部分を具体的に取り入れてお示しをしました。次年度は、この計画に基づいた教育を学校でも社会教育の場でも実現していけるように取り組んでまいりたいと思っております。

この育てる力の創生の中に示されているのは、幼、小、中、高、連続した教育活動となっておりますけれども、教育委員会として直接かかわっている部分というのは、小中学校が中心ということになりますので、幼、高での取り組みとしての整合性を図りながら、効率よく実施していくためにも、今まで以上に横の連携をしっかりと行いながら進めていくことが必要になってまいります。そのような点からも総合教育会議による教育委員会と市長との意見交換は大変重要な機会でございますが、今やっている統廃合問題も含め、この会議にとどまらず、今後の教育体制を築いていけるようにしていきたいと思っておりますので、ぜひその辺のところをよろしくお願ひしたいと思っております。

市長

教育長からご意見いただきましたが、この大綱に書き加えていただく中で、無理な点がございましたでしょうか。何かご意見ございますか。

委員長

大綱を踏まえて、それらをベースに今回の振興基本計画は修正をしたと思っておりますので、スムーズに取り入れたというか、一緒になってやっていこうという気概が出てきたと私は思っています。

五木田委員

市の施策をバックグラウンドに意識しながら、皆さんで文言を吟味しながらつくり上げたものです。

市長

ありがとうございました。企画政策課長から何かございますか。

企画政策課長 私たちもかかわってきました地方創生戦略、これを基本に展開していただけるということは、市全体として一致団結した中でということ考えていると思っています。

市長 子育て支援課主幹はいかがでしょうか。

子育て支援課主幹 15ページの4項目めに、「グローバル社会で活躍できる人づくり」というところが新しく教育大綱の策定に伴い追記されたわけですが、以前話し合いのときに、私、このところをもっと意見を述べればよかったかもしれないんですけど、ここに「異文化理解の向上」ということがあるんですけど、「自国文化の理解」という言葉が入るべきなのかなということ常々思っていました。

意見を聴く会においても、松尾中学校においても、蓮沼中学校の会場でも、「自国文化の理解」というところが抜けてはしないかと、必要なんじゃないかという意見が確かにあったように思います。真の国際人の育成という部分でいったときに、やはり「自国文化の理解」というのはベースでもあるのではないかなということ思うところではあります。

市長 よろしいですか。その点については、教育長も常々、国際化、グローバル化というときに英語教育だけでいいのか、そうではないとお話をいただいているらっしゃると思いますけれども、当然、自国文化に裏打ちされた国際人でなければならないというのは当たり前だということを書いてないのか、それとも書き込む必要があるのかという、いずれにしても書き込んだほうがいいんじゃないかというあれなんです、その点はどうですか。何かございますか。

学校教育課長、どうぞ。

学校教育課長 15ページの赤字の部分でございます。具体的な部分については、グローバル人材ということについては、英語や他国理解だけではなく、自国をしっかり理解するというので、具体的な施策には、先ほど申し上げたところに入っておりますし、この中において、そこを読みかえるわけではございませんが、2行目の「活躍できるよう、英語等の語学力・コミュニケーション能力」、このコミュニケーション能力というのは、やはり自分のことを語れないと相手とは国際的には関わっていけないというようなことで、この中に組み込んでいけると考えています。

ただ、それにつきましては、また後で教育委員会議で話題にして、どんなものにするかとかいうことについて検討することになるのかどうか、はっきり申し上げられませんが、事務局のほうでは、コミュニケーション能力ということについて、自国もしっかり理解するというのを、その中身を含めて考えてきているという状況でございます。

市長

英語教育ですとか、グローバルだとか、国際交流だとか、インターナショナルとか、それだけでアレルギーを持っていらっしゃる方もいるということで、そういった面からすると、グローバル教育を大事にするということは前提として、自国の文化をしっかりと学ぶ、身につけることはもちろんだということなんだけれども、あえてそういうことを書いといたほうがいいんじゃないかということだと思います、ご意見としては。そうしないと、強烈なアレルギーを持った方がいらっしゃるの、当然そういうことが含まれていますというのではなかなか理解してもらえないのかもしれないというところのご意見として見ていただければと思います。

どうぞ。教育長。

教育長

自国文化の理解ということについては、私の考えでは、グローバル化が世界に出れば出るほど必要になることだと思っています。同じ日本社会の中にいる限りにおいては、同じ文化の中で暮らす者同士、あえてそこに強い意識を向けなくても共有しているものなんです、グローバル化が進んで、外に行くからこそ内側をしっかりと見なきゃいけないと捉えていますので、グローバル化をどんどん進めることに伴って、必要なこととして含まれていると私は理解しております。今おっしゃりましたように、当然それをやっていくんだということは、外に向けてまたやるんだということ表現していくことは必要なことだと思っておりますので、その辺は十分検討していきたい。

市長

ちょっとご検討いただくということで、私たちがグローバルという言葉を使うときには、必ず、今、子育て支援課主幹からのお話がありましたように、自国の文化を身につけるということは、当然その中に、根底に入っているという共通理解の上で話をさせていただいていますということが山武市のいろんなところで共通の理解になっていくようにしていかなければいけないということだと思います。

けれども、そののちをあえて共有するのちしないのちということについて、ご検討いただければと思います。

副市長、何かありますか。

副市長

この前の意見を聴く会の蓮沼中学校で申し上げたのち、申し上げられなかったのち、ちょっと覚えてないんですが、学校統廃合の問題と、それから地方創生の中で育む、育てることをテーマにしているというのは、これは車の両輪だと思っております。子どもを真ん中に見据えて、子どものためにどういった学校環境をつくるのち、それから、子どものためにどういったコミュニケーション能力であるのち、こういったものを、その前提には、この地域の経済的な自立、それから雇用を求めること、その前提には、やはりしっかりした教育が備わった子どもたちをつくっていかなきゃいけない、そういう前提があるんですけれども、子どもを真ん中に見据えたときには、車の両輪だと思っておりますので、市長部局としてもそういう考えのもとで、教育部局と一緒にやっていくべきだと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

市長

ありがとうございます。ほかに何かご意見ございますでしょうか。

学校教育課長に、私から理解を共有化したいと思うんですが、先ほど、「多様な価値観」という言葉が何回か書いてありましたが、「多様な価値観」というのは、ちょっと私たちには漠然としていて、ご説明していただけますか。

学校教育課長

まず、大きく言いますと、生まれ育った国が違ひ、それが1つございます。それから、狭く考えていきますと、日本国内においても地域差があります。それから、県内にも地域におけるいろいろな伝統文化、または生活習慣等があります。そういった部分で育つてくると、価値がやはり違ひてくる部分がどうしてもございます。生活習慣的な部分が違ひてきます。

それと、もう少し狭くしますと、家庭の文化といひますか、家庭の生活習慣が違ひるものがございます。そうすると、さまざまな日常生活の中で培われた習慣が文化になってきます。そうすると、10家族あれば、10とおりの習慣が、違ひるところが出てきます。そういったところでの価値がやはりまじり合っている、そういったものが「多様な価値観」というところまで掘り下がっていくのかなと考える

ています。

市長

すいません。今の話で、例えば教育の現場では、10家族があったら10とおりの家庭環境から来る違う価値観がある、それはそれぞれを価値観として認めましょうと、どれが正しいとかじゃなくてという理解なんでしょう。例えば集団生活をしていく中で、全く集団生活とはかけ離れた価値観をお持ちの方もかなり出てきているんですが、それも含めて「多様な価値観」とおっしゃっておられるんでしょうか。

学校教育課長

その価値観というのが、正当化されるものではなくて、いろんな価値を持って育ってきているという捉え方ですので、それがいいか悪いかということではなく、求められる、これから社会人になっていく上で、義務教育の場合については、社会に出てしっかりと活躍できる人間形成づくりというものがございますので、そこに向けての価値をそろえていかなければいけない、そこに学校教育の役割が今あると考えます。

家庭の文化と云ったら失礼ですけれども、そういったさまざまな家庭の中で、例えば、「おはようございます」と言って、朝起きて、そして、みんなでご飯を食べてくるのか当たり前で持っている子どもたち、1人で食べるのが当たり前な子どもたち、それから、家庭の中において、日常会話の中で、「いい子だね、頑張ったね」と褒めるのが当たり前の家庭、そうじゃなくて、「何をやってんだ」とかというようなことが当たり前の家庭。

だから、子どもたちは学校へ上がってきたときに平気でその家庭で身についた習慣を持ってきます。そういったものは、子どもたちは何の罪もなくそれが当たり前だと思っていますので、そういったものを含めて、学校教育の中では、そういったさまざまな価値をきちんと望ましい価値にしていくということが必要なのか、それをやっていくことによって、初めて自分の価値の違いだとか、そういうものに気がついていきますし、将来的には、大きくグローバルな日本と他国の違い、そういったものにも価値を高めていくことにつながっていくのではないかなという考え方で、ちょっとわかりづらいかもしれませんが、そういう取り組みです。

市長

最初におっしゃった、例えば国によって、あるいは民族、宗教によって違う、生まれた国によって違うとかいうのは、それは日本に

外国から来て、これから増えていくだろうと。その人たちが日本人と別の価値観を持って、それが日本の社会の中で混在していく場合には、お互いに価値観というのを認め合っていくということになるかと思いますが、今の先生のお話は、日本の社会の中で、日本の社会は結構、単一民族社会、そこに一定の価値観を求められていると思うんです。学校教育では、そこにそろえていくと今おっしゃったんですけれども、ここで「多様な価値観が存在する社会」と言ったときには、そこがよく理解できてないんです。

学校教育課長

ちょっと細かいところまで話をしてしまいましたので、多様な価値観については、違いをきちんと認めていくということが大切だし、そういう方向で行くということです。ただ、そういう価値をきちんと認めていくためには、やはり今、学校に上がってくる実際の子どもたちを見ると、さまざまな温度差がありますので、それが一定程度きちんと日本人としての価値を高めておく必要がある、そこが学校教育の役割かなというふうに、2段階になりますけれども、そういった捉え方です。

市長

とりあえず、わかりました。ありがとうございます。

副市長

市長、よろしいでしょうか。

市長

どうぞ。副市長。

副市長

たまたま読んでいた本にありまして、メモしてきたんですけれども、これからグローバル化がさらに進めば、異なる価値観を持つ外国人、国家同士、人間同士が向き合わざるを得なくなると。そのときに相手よりいかに優位に立つかというところにきゅうきゅうとするよりも、むしろ相手の気持ちがわかる、共感性が高いといった能力といいますか、どんな文化の違う人にも適応し、理解することができる能力が必要になる、それが重要になってくるということで、今の話は共感性を持てる能力のある子どもたちを育てていくということなのかなと思いました。日本人はやはり共感性が高い人種なので、相手をやっつけるというよりも共感性をおもんぱかるといった、そういうのが得意な人種だということが物の本に書かれておりました。そういうことかなというのは聞いていて思いました。

市長 五木田委員、何かありますか。

五木田委員 教育というのは、ある程度、上から下への圧力といいますか、エネルギーが必要だと思いますけれども、ハンディをそれとは別に個性というのが、今までは欠点も1つの見方では個性として捉えていく、特別支援なんかの場合は、特にそういうような捉え方をしていると思います。学校教育課長の話もよくわかりますけれども、これからのグローバル社会にとっては、やっぱり大事なことだろうと思います。相手の文化、習慣を尊重することは大事なことだろうと思います。

市長 そうすると、どちらかということ、グローバル化社会とかいったところから出てくる多様性ということですよね。何か現代の日本人がそれぞれ勝手なことを言っていて、「俺んちはこう考えるだ」、「俺んちはこう考えるんだ」という、それを多様化と言っていることではないということですよ。

五木田委員 選択肢がたくさんあるということでしょう。

学校教育課長 そのとおりでございまして、世界にはさまざまな文化や伝統といったものがありますから、そういったものをきちんと理解ができるような、また、そういったものを受け入れられるような社会の中の部分での多様な価値が入ってくるということに対応できる人づくりを進めていきたいと考えています。

市長 そのぐらいの理解でよろしいですね。それでは、事務局さん、ここでは何を書き込む、書き込むところはないからいいんですか、これ。

教育総務課長 教育委員会でこういう改訂を決定しますというご報告をさせていただいたところでございますので、これで結構でございます。よろしくをお願いします。

市長 ありがとうございます。それでは、このような形で進めていただいて、今日、ちょっとグローバル化の前提としての自国文化に対する理解、それについてのご意見がありましたけれども、これを共有していきたいのは、グローバルを語るときには、必ずその根底に

はそういったものがあるという認識で話をしているんだということ
を常にお伝えをしながらいくということで行きたいと思えます。よ
ろしくお願いします。ありがとうございます。

(3) その他

平成28年度の予定について

市長 それでは、「平成28年度の予定について」事務局から説明をお願い
いたします。

教育総務課長 それでは、資料3、11ページ目になります。平成28年度の総合教
育会議年間スケジュール（案）ということでお示しさせていただきました
ました。

開催時期につきましては、7月ごろに1回目、2回目を9月ごろ
ということで、2つ考えておりました。9月につきましては、先に
9月のお話をしちゃいますけれども、教育予算についてということ
で、重要施策の方向性についてご議論いただきまして、それに基づ
いて予算の組み立てができればなというところで、9月にはそうい
う予算の関係のお話し合いの場を設けさせていただきたいと考えて
います。

7月ということで、1回目につきましては、今取り組んでいます、
まち・ひと・しごと創生戦略に係る事業の進捗状況とか、それに伴
う市長部局と教育委員会の連携というテーマで話し合いができれば
なということが1つと、あと、教育関連施設の効率的な管理及び効
果的な活用についてということで、こちらにつきましては、今お話
を進めています学校の統廃合の関係で、廃校になる学校の土地利用、
有効的な活用という点も含めまして、そういうことの効果的な活用
という点と、もう一点は、前から市長部局のほうからお話しいただ
いている教育委員会の施設の指定管理者制度ということで、まだ
1つも取り組んでいないという現状を踏まえて、そろそろ始めたら
どうかというお話を以前からいただいているということもあわせま
して、そういう施設絡みのお話し合いができればいいかなというこ
とで、ここは、現段階で教育委員会の事務局としては、こういう形
で今、書かせていただいております。実際にやるときには、事
前にまたお話し合いさせていただいて、テーマを決めていければと
いうことで考えております。

※印の部分ですけれども、引き続き小中学校の統廃合の課題がま

だまだ続きますので、先ほどありました2つのほかにもそういう話し合いをさせていただく場を設けさせていただきたいということで、そうしますと、年間に直しますと、今年と同じぐらい、3回から4回程度を開催させていただくような形になるのかなということで考えています。

説明は以上です。よろしくお願いいたします。

市長

それでは、開催日程、時期、議事内容について、何かご意見ございましたらお願いします。

もしないようでしたら、以上で終了させていただきたいと思えます。ありがとうございました。

◎その他

教育部長

ありがとうございました。次第の5のその他の件ですが、何かほかにございますか。よろしいですか。

なければ、以上で平成27年度第4回山武市総合教育会議を終了いたします。

◎閉 会 午後3時25分